# 診療支援局：検査・栄養部門　病理検査科

## ―概要―

病理検査科の業務は、細胞診断、生検組織診断、手術で摘出された臓器・組織の診断、手術中の迅速診断および病理解剖からなっており、診断を確定するためないしは最終診断として「病理診断」は大きな役割を果たしている。

また近年病理検査の役割が増している。ガン治療のための分子標的薬が登場したことにより、治療の選択肢が増加し、必要に応じて免疫組織染色等を加え、特異的、効果的な治療の選択に繋げている。このため、質の高い、標本作製が重要である。さらなる病理技術向上に努めていく。

今年度は、臨床検査技師（細胞検査士）1名が退職し、1名（細胞検査士）が採用された。また新たに細胞検査士認定試験で1名合格した。

今後の課題としては、Roche社の自動免疫染色装置の老朽化により、故障が目立つ。機器更新が急がれる。

## ―実績―

組織診は年5％程度右肩上がりに件数が増加していたが、昨年度はコロナの影響で減少している。術中迅速組織診は200件/年近く実施されている。細胞診は、当院産婦人科の特殊性から件数は減少傾向にある。病理解剖は減少しており、10件/年以上を維持すべく努力しているが、今年度は9件である。

| （外来） | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 病理組織標本作成 | 158 | 145 | 157 | 191 | 158 | 160 | 166 | 178 | 152 | 165 | 139 | 177 | 1,946 |
| 細胞診（婦人科材料） | 153 | 140 | 260 | 210 | 124 | 205 | 258 | 216 | 161 | 148 | 146 | 183 | 2,204 |
| 細胞診（その他材料） | 172 | 133 | 174 | 162 | 157 | 162 | 185 | 140 | 183 | 146 | 135 | 185 | 1,934 |
| 合　計 | 483 | 418 | 591 | 563 | 439 | 527 | 609 | 534 | 496 | 459 | 420 | 545 | 6,084 |

| （入院） | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 病理組織標本作成 | 179 | 167 | 229 | 221 | 230 | 190 | 218 | 193 | 185 | 189 | 157 | 188 | 2,346 |
| 術中迅速病理組織標本作成 | 8 | 12 | 9 | 17 | 17 | 14 | 12 | 14 | 14 | 10 | 13 | 14 | 154 |
| 細胞診（婦人科材料） | 2 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 1 | 1 | 10 |
| 細胞診（その他材料） | 39 | 41 | 54 | 25 | 44 | 27 | 36 | 19 | 34 | 38 | 22 | 31 | 410 |
| 術中迅速細胞診断 | 9 | 7 | 7 | 8 | 9 | 8 | 10 | 13 | 10 | 7 | 8 | 10 | 106 |
| 合　計 | 237 | 228 | 300 | 271 | 301 | 239 | 277 | 239 | 245 | 244 | 201 | 244 | 3,026 |

病理解剖：9件

## ―今年度の成果と反省点―

病理診断支援システム（Path window）が更新された。今回、医療事故防止の取り組みとして、WEB病理検査報告書の未読・既読管理システム機能が追加され運用を開始している。しかし、まだまだ周知されていないのが現状である。さらに、臨床側の協力を得ながら未読防止対策に取り組んでいく。

## ―来年度への抱負―

人材の育成、技術向上や業務の効率化を目指し、検査日数の短縮化を目指す。また臨床側の要望に柔軟に対処する。